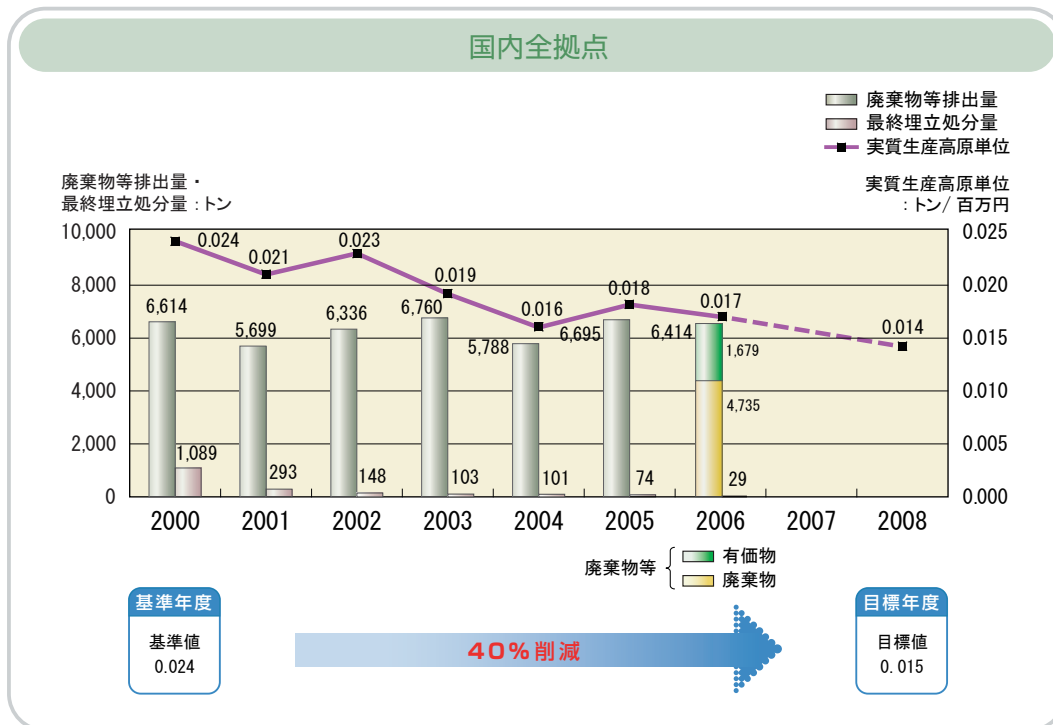
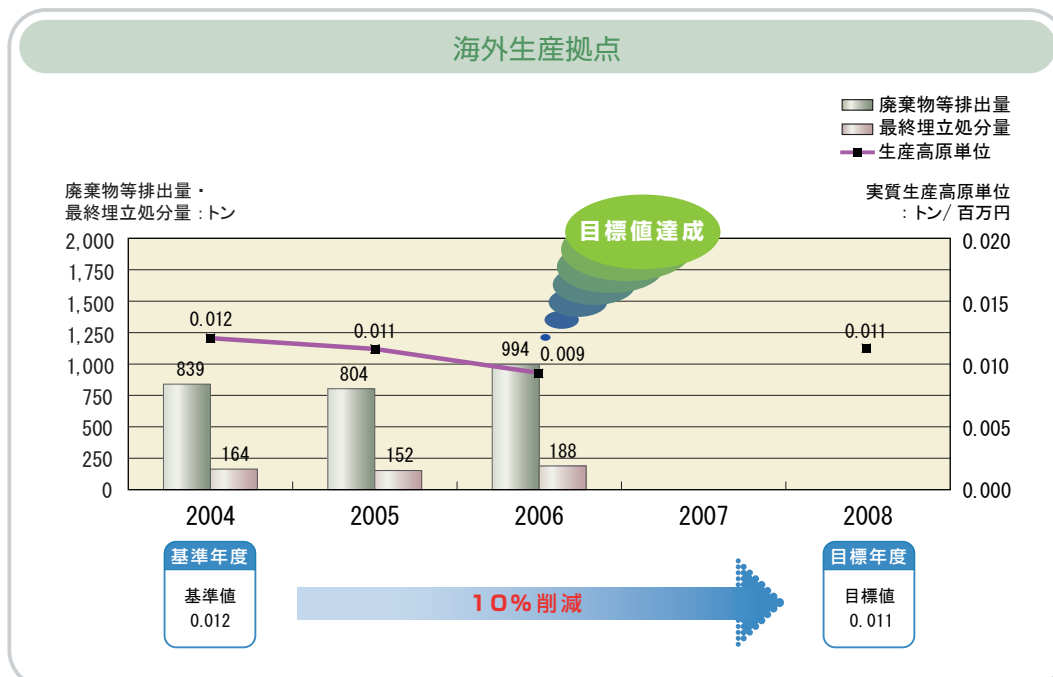


廃棄物等排出量・最終埋立処分量及び実質生産高原単位の推移(国内全拠点)
 廃棄物等排出量・最終埋立処分量及び生産高原単位の推移(海外生産拠点)

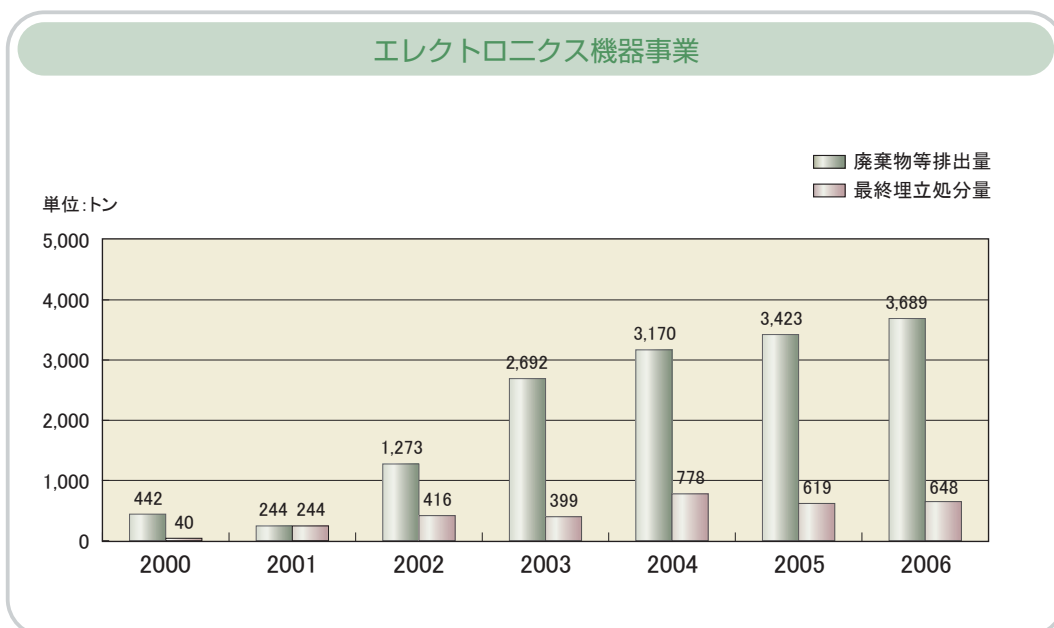


2006年度から廃棄物等排出量の内訳を有価物と廃棄物に分類しましたが、これは、排出量の削減と同時に有価物化を推進する施策によるものです。



廃棄物等排出量は生産規模が拡大するに従って、増加する傾向があります。これは最終埋立処分量も同様です。2005年度に対して2006年度の廃棄物等排出量が190トン増加した理由としては、カシオ電子科技中山の本格稼働が挙げられます。生産高原単位でみると、2006年度は0.009と2008年度の目標値 0.011を達成しましたので、2007年度中に新しい目標値を策定します。

事業活動別 廃棄物等排出量・最終埋立処分量の削減の推移



カシオの事業活動は、デバイス事業とエレクトロニクス機器事業から構成されています。
 生産および非生産事業所を合わせた全拠点の事業活動別 廃棄物等排出量・最終埋立処分量を経年グラフで示しました。
 これらのグラフからわかるように、デバイス事業の廃棄物排出量のほうがエレクトロニクス機器事業に比べて多いにも関わらず、
 最終埋立処分量が著しく少ないことがわかります。